

# Fontaine

vol. 36

発行日 2012年7月25日  
発行/岸和田文化事業協会  
〒596-0073 岸和田市岸城町5-10  
岸和田市立自泉会館内  
TEL/FAX 072-437-3801  
Email:fontaine@sensyu.ne.jp  
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

## 「岸和田市文化振興条例」 策定に係わって



岸和田市文化振興条例策定委員会 委員長  
大阪音楽大学講師

橋本 徹雄

昨年2月、突然岸和田市から文化振興条例を作りたいので、策定委員になってほしいとの依頼がありました。更に委員長もとのこと。私としてはいささか困惑しました。というのは、私はこの40年以上にわたり一音楽家、大阪音大の教員として活動しており、どちらかと言えば演者側の人間であり、演者を動かす側の立場ではなかったからです。が、思い切ってお引受けすることとし、4月から委員会が動き始めました。

委員のメンバー構成をみると、岸和田市の文化活動の指導的立場にいらっしゃる方々が一同に集まっており、市民の文化に対する認識の高さにびっくりさせられました。と同時に感じたことは、それぞれの団体が様々な活動を展開している中、それを踏まえた上で、市民がさらに意欲を持って活動を活発化させ、また、享受できる環境を作り出せるような条例にしなければならぬということでした。

岸和田といえば、「だんじり」の町として全国的に有名なのは知っていましたが、以前、「東の水戸、西の岸和田」と言われたくらい文化活動が活発であったことは今回初めて知りました。真に文化的な町として自慢できるように、しっかりした条例にしなければいけない、という使命感と責任を感じた次第です。

各団体がどういった活動を展開しているのか述べてもらうことから始め、将来の展望や市に

対しての要望を聞き、それらを基に作業に入りました。幸い、皆さんから活発な意見を頂けたことはとても有難いことでした。その分、まとめるのにも苦労しました。

委員会も回数を重ね、15回目にして原案が出来上がりました。委員の皆さんには長期間にわたり真剣にご審議いただき、心より御礼を申し上げます。

岸和田市にはスペイン風の文化的建物である自泉会館があり、文化事業協会が活動の拠点としていることは、市民の皆さんもよくご存じだと思います。これは他市には見ることの出来ない、岸和田独特の文化として誇れるものです。市民側から見てもこういった文化的遺産の中で、音楽等の公演などを体感出来るという、とても恵まれた環境にあるといえるでしょう。私も何度か演奏させていただいたことがありますが、演奏する側にとっても、素晴らしい空間の中の演奏は大変心地よいものです。機会があれば、また演奏したいという気持ちにさせてくれます。

今後、和・洋音楽の公演はもとより、踊り、映像、絵画、写真、書等、色々な組合せによるコラボレーションを通じ、市民の皆さんに心の潤いと、生活への活力を生み出してくれる文化発信の拠点として、存在価値をアピールし続けて欲しいと思っています。

# 岸和田文化事業協会

平成24年度

## 定時総会を開催



金森大阪文化団体連合会事務局長挨拶

岸和田文化事業協会の平成24年度定時総会が、5月26日岸和田市立自泉会館で開催されました。

松本会長は「今、岸和田のすごさをひしひしと感じています。私は人形劇団クラルテが生業で全国を飛び回り、岸和田は寝る所と祭りを楽しむ所でしかなかったのですが、文化事業協会に関わり会長となってから岸和田を知れば知るほど、そのすごさに驚くばかりです。情報誌『ふおんてーぬ』は、そんなすごい人、歴史、物などを紹介していますので、是非読んでください」と開会の挨拶。

来賓の出口副市長は、「今年は岸和田市市制施行90周年、岸和田文化事業協会結成10周年の記念の年に当たり、より一層市民と力を合わせ文化の振興を図りましょう」と野口市長の祝辞を代読されました。

次に金森大阪文化団体連合会事務局長が「文化の香りがする岸和田の町を歩くのが好きです。香りは目に見えないものですが、目に見えないものが実は大事なのです。文化も見えるものではありませんが、真に大事なものです」と祝辞をいただきました。

また来賓の岸和田市の西川企画調整部長、玉井文化国際課長もご臨席くださいました。

続いて西出安廣氏が議長に選出され、議事に入りました。まず平成23年度事業・決算報告を承認。平成24年度も「文化は市民の共有財産であり、これを守り、育て、創り出すのは市民自身である」との会則の基本理念に沿った事業計画・予算(案)、自泉会館管理運営等全ての議案が承認されました。

第2部のイベントは、昭和初期のレコードコンサートです。小林健治郎氏操る手動の蓄音機で、岸和田ゆかりの人、曾我廼家五郎大一座の喜劇と吉田奈良丸の浪曲を万代博史氏の解説付きで楽しんだ後、曾我廼家五郎ゆかりの展示物に囲まれた展示会場で、懇親会の一時を持ちました。(紙野陽子)



総会風景

曾我廼家五郎ゆかりの展示物

# おか べ なが ちか 岡部長慎と

## ほん ぞう こう もく けい もう 「重訂本草綱目啓蒙」



岡部長慎(南山公)

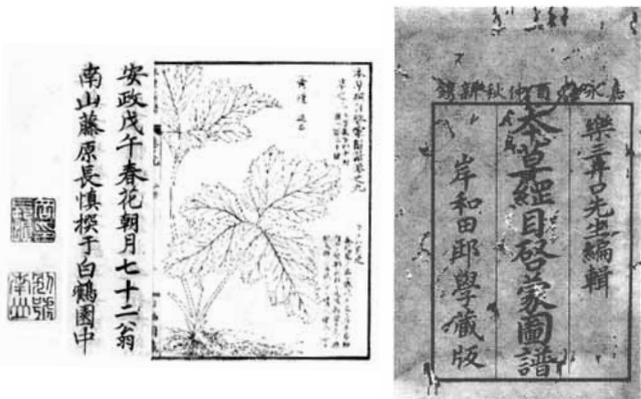
岡部長慎は岸和田藩第9代藩主で南山と号した。藩主に就いた享和3(1803)年頃は藩財政が極端に悪化していたため、自ら儉約に努め、新税の導入、さらに文政11(1828)年には大坂天満の商人であった石田小右衛門をコンサルタントとして登用。藩財政の指揮を執らせ、家臣にも協力を厳命するなど藩士の意識改革にも努め、禄高の抑制などを行い従来の改革に無い大きな成果を上げたと言われている。小右衛門の関わりは、長慎が家督を長和に譲る天保4(1833)年まで続き、小右衛門はその後、岸和田藩での実績が買われて西本願寺や富山藩の財政改革などに関わる事となる。

さらに長慎は、家臣には信賞必罰で臨み、文武を奨励。家督を譲り隠居して南山と号しても藩政の執政は続け、特に文教政策に多くの実績を残した。その一つは藩校の創設であり、藩校講習館を設立して、藩士子弟の教育に尽力した。講習館の教官として相馬九方を招き、彼の指導のもとで土屋弘(鳳洲)ら明治期に活躍する優秀な学者たちが育った。

そしてもう一つが、本草学の名著、小野蘭山の『本草綱目啓蒙』の再刻である。小野蘭山は享保14(1729)年京都で生まれ、ほとんど独学で動植物を学び、25歳で私塾「衆芳軒」を

開き、杉田玄白、木村兼葭堂、谷文晁、水谷豊文、狩谷掖斎など生涯に千人の門弟を指導したと言われる。次第に名声も高まり寛政11(1799)年71歳にして幕府の招きで江戸に移り、幕府の「医学館」で講義するとともに江戸から遠く紀伊・木曾の地まで採集旅行をしている。そして博物誌を集大成したとされる名著『本草綱目啓蒙』48巻27冊を出版する。同書は日本の動植物研究者の座右の書であり、「日本の植物学の父」牧野富太郎が、裏山で植物の採集などをして過ごし、祖母に買い与えられた「重訂本草綱目啓蒙」で植物の名前を覚え、細かく調べて分類、保存し、その様子を精緻にスケッチした。これが彼のライフワークとなったことでも有名である。

弘化3(1846)年に小野蘭山の孫にあたる小野職孝が、南山公に同書の初版及び再版の版木が焼失して長らく絶版となっていることを訴え、同書の復刊を願い出ていた。同年12月2日には岸和田藩医師井口望之が職孝を訪問し再刻することを伝え、早くも4日には岡部邸で再刻の相談が始まっている。弘化4年9月には、小野蘭山(口授)、小野蕙畝(録)、井口楽三(重訂)「重訂本草綱目啓蒙」48巻20冊が「岸和田邸学蔵版」として上梓されている。さらに、南山公は同書に図譜の無いのを惜しみ、井口望之編「本草綱目啓蒙図譜」巻8、巻9、四冊を完成させている。図は、巻8山草部上を藩絵師服部雪斎が、巻9同下を同版本純沢が描いている。両書とも博物画として優れたものであるが、何らかの原因で山草部上下2巻で終わってしまったのは惜しいことである。この時の版木は、岡部家から東京国立博物館に移り、現在も大切に保管されている。



「重訂本草綱目啓蒙」及び跋文末尾

岸和田には多くのすばらしい先人たちがおられます。いろいろな分野で活躍された岸和田ゆかりの著名な方々をご紹介します。

歩いて岸和田のよさを知る

# 岸和田慢歩

第7回 「内畑バス停から山口バス停まで 内畑町に点在する寺社を巡る」

## 岸和田慢歩 MAP



### ① 南海バス内畑バス停

スタートは山滝小学校前にある内畑バス停から。

### ② 笠形地蔵

内畑交差点にある地蔵堂。

傍らの石碑には「若檀不動道 是ヨリ東二十丁」とある。

### ③ 中ノ池

内畑町会館の側にあるため池。

### ④ 青蓮寺

三間四面の木造寄棟瓦葺の真言宗に属する小堂。

元禄7年の寺社覚に「朝日山長光寺の観音堂」と見える。

### ⑤ 塞の神

丸石を祀っており、禍いの進入を防ぐのが目的とされる。住宅の垣根の片隅にあるため、見落とさないよう注意が必要。

③ 中ノ池

④ 青蓮寺

⑥ 長光寺

⑦ 秋葉社

⑧ 八王寺社

⑨ 山口社

ゴール

⑩ 南海バス山口バス停

岸和田市の山間部、内畑町には「中字」に相当する「下出」「東出」「山口」「沢峯」「西堂」「辻堂」の集落があり、「山口」には、かつて「山直神社」の宮寺であった「青光寺」のほか、3つの社が鎮座しています。今回は、深緑に抱かれながら佇む寺社を巡るコースの紹介です。

理事 藤田保平・齒黒猛夫

#### ⑥長光寺

「真言宗朝日山」と号し、明治の頃、現地に移転。奈良時代以前の創建と伝えられ、現在の山直神社南方の丘から「辻堂」「西堂」「沢峯」「山口」にかけて多くの寺坊が散在していたとされる。

#### ⑦秋葉社

静岡県秋葉神から起こった鎮火・防火の信仰で、祭神は火の神である「火之迦具土」。『古事記』の「国生み」で有名なイザナミ尊は、この神を生んだ火傷がもて亡くなったと伝えられる。

#### ⑧八王寺社

内畑には4つの宮座があり、八王寺社は「大座」と「南座」の神社。「はとうさん」と呼ばれ、大座の氏子で子どもが生まれると、宮参りは山直神社の次に、この神社に参るといふ。高台にあるため眺望は絶景だが、到るまでは足元と近所で飼われてい犬の鳴き声に注意。

#### ⑨山口社

祭神は「弁財天」。内畑の生命線ともいえる荒堰の水路に臨み、元禄7年の寺社覚には「山口弁財天」と記されている。

#### ⑩南海バス山口バス停

ゴール地点の山口バス停。

※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。  
国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。

スタート地点は「内畑バス停」。道路に沿って山側に歩くとすぐに「内畑町交差点」があり、角には「笠形地蔵」が祀られています。交差点を左折し、内畑町会館を過ぎて「中ノ池」の横にある角を右折すれば急な坂の上に「青蓮寺」の観音堂が見えます。青蓮寺から道なりに進み、坂を下って右に折れ、橋を渡って左方向に進むと「長光寺駐車場」の看板が見えます。その角を右に折れてしばらく歩き、路地の角にある民家の垣根の隅に小さく祀られているのが「塞の神」。もと来た道に戻り、急な坂を登れば「長光寺」。山門の奥にある急な階段を登ると「秋葉社」が鎮座しています。長光寺前の駐車場を横切り、しばらく進むと獣道のような地道になり、「八王寺社」の鳥居が見えてきます。坂をまっすぐに下りて左に折れ、しばらく進めば「山口社」。そのまま進んで牛滝街道に出て、海側に戻れば「山口バス停」に到着です。距離も長く、急な坂が多いので、かなりの脚力を必要としますが、深い緑に包まれ、牛滝川支流のせせらぎを聞きながらの散策は、心が癒されます。ただし、これからの季節は熱中症対策のため、こまめな水分補給をお忘れなく。

## 岸和田あ・ら・が・ら・と

らくらく手作りファーム 山崎 健一

### 泉州の特産物「水なす」



これまで岸和田は、だんじりと泉州水なすが有名でした。今年NHKで放送された「カーネーション」が全国に岸和田の名を広めました。

ところで近年、泉州の特産物として水なすのぬか漬けが、家庭でも、お土産としても喜ばれています。お年寄りに特に人気が高いです。

なぜ水なすのぬか漬けが喜ばれるのでしょうか。やはり水なすの浅漬けがあっさりして、たいへんおいしいからでしょう。お漬物のプロである針塚さんが、その著書

で「大阪・泉州（岸和田）の水なすは、しばれば水がしたたるほど水分が多くてやわらかく、浅漬けにすると絶品の味です」と紹介しています。

家庭でも泉州水なすのぬか床を比較的簡単に作れます。米ぬか500gに水400~450g、天然塩40~50gを加えて、みみたぶくらいの硬さにします。これに風味付け昆布1切れ、赤唐辛子2個を加えて出来上がりです。乳酸菌（ビオフェルミン）やビール酵母を加えるとぬか床が早く発酵します。水なすを色よくつけるには、少量のミョウバンをまぶします。塩加減など好みによりますが、ぬか床につけて1日で食べられます。きゅうりもおいしくつかります。ぬか床は、ポリ容器に入れて冷蔵庫で保管すると長持ちします。自分で漬けるとおいしいものです。この夏、ぜひ皆さんも試してみてください。

「カーネーション」人気にあやかって泉州の農業も元気に発展してほしいものですが、心配なこともあります。ここ数年雨がどっと降ったり、時期はずれの強い風がふいたり、温暖化によると思われる異常気象と都市部のヒートアイランド現象が顕著になっています。持続可能な農業のためにも地球環境の保全に力を尽くしましょう。

# Cultural Hot Spot In Kishiwada

知ること、岸和田を好きになってほしい!  
岸和田ボランティアガイド

近年、各地の名所旧跡を旅すると、観光ボランティアが地域の歴史や見所を説明している姿をよく見かけます。岸和田市でも観光ボランティアが活動されているのをご存知でしょうか？ NHK連続テレビ小説「カーネーション」の放映開始後大忙しの「岸和田ボランティアガイド」、倉井信夫新会長にその活動内容などをお聞きしました。

(《 》内は、取材者の声です。)



(左から)路次博さん・倉井信夫会長・辻井多美雄さん

## Q どんなグループですか？

A グループの正式名称は「岸和田ボランティアガイド」で、2001年に「岸和田城址保存会」の後押しがあって発足しました。

《あれっ？ 観光という言葉は入ってなかったのですね？》

目的は、岸和田に来られる方々に、岸和田を知ってもらうことを通して岸和田に愛着を持ち、岸和田を好きになってもらうこと。

《岸和田を誇りに思い、自慢できる岸和田だからこそ出来ることですね。》

会員は現在33人、定年退職後の方が多く前職もさまざま、その内ガイド活動者は30人位です。ガイドは「広報きしわだ」で募集し、応募者は10回の研修後、希望者のみガイド登録をします。

## Q 案内のポイントは何？

A 勿論ガイドは一朝一夕には出来ず、知識や技術の向上のため毎月の定例会での研修や、現地研修など

研鑽を重ねなければなりません。案内のポイントは、『どうわかりやすく説明するか』です。受け持ったみなさんの興味の度合いを見極め、要望に応えつつもペースにあわせて話します。それには、歴史だけでなく+αの話材を持っていないと対応できません。説明調やつぶやき調にならず、対話調で案内するよう心がけています。また、高齢者や子連れの方への配慮、交通事故への注意なども欠かせず、四方八方に目配り気配りが必要な仕事です。

## Q 申し込みやガイド料は？

A 案内は、予約申し込み(だんじり会館で受付。1団体一律1,000円)のほか、土・日・祝日はだんじり会館にガイドが常駐して希望者に無料で応じます。ガイド料は会の事務経費に使われます。

例年は、4,000人から5,000人の方々を案内していましたが、昨年度は「カーネーション」の反響で15,000人の観光客を、岸和田城、だんじり会館、城下町、五風荘、駅前商店街等に案内しました。会で編集した冊子「城下町巡り」を、まちづくりの館で販売(500円)していますので興味のある方はお求めください。

《15,000人も観光客のガイドって、すごい年でしたね。ご苦労様でした。》

~~~~~

倉井会長の「私は、第二の人生は社会に少しでもお返しすることが大事だと考えています。働き続けられたのは周りの人々の助けがあったからこそ。今は、ボランティアで恩返しさせてもらっています」という言葉が忘れられない取材となりました。

(取材・文 小島栄子・紙野陽子)



案内風景(コシノ洋装店前)

# Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。  
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。



## 蓄音機を使った昭和初期のレコードコンサートVol.3

平成24年3月14日(水)午後1時30分～

昭和初期にアメリカで製作された蓄音機とSPレコードを使ったコンサートを自泉会館ホールで実施し、18人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- 企画が面白くて、どんなものかと思ってきました。
- 初めて参加しました。気持ちが穏やかになり、昭和のにおいがしました。
- バラエティに富んで、とても楽しいコンサートでした。

## 第5回フレッシュプレミアムコンサート ～未来へ ここから～

平成24年3月17日(土)午後5時～

平成23年4月～12月のフレッシュコンサートの出演者の中から推薦された7人の演奏者と、「自泉ジュニアコンサート」で優秀賞を受賞した4人によるコンサートをマドカホールで実施し、150人の入場者がありました。今回から優秀者に対して賞状を授与しました。

〈皆さんの声〉

- ジュニアの演奏の素晴らしさに驚きました。
- 新人育成のための事業に取り組まれていることに、深い敬意を表します。
- 一年を通しての中から選ばれた方々なので、とても良かったと思います。
- みんな、プロとして羽ばたいて欲しいです。



## 第29回自泉フレッシュコンサート ～春風にさそわれて～

平成24年4月21日(土)午後6時30分～

ピアノデュオとソプラノのコンサートを自泉会館ホールで実施し、37人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- やはりライブの音は素晴らしいです。
- ソプラノの歌声とピアノデュオの音色に癒されました。

## 日本の喜劇王 曾我廼家五郎展

平成24年5月27日(日)～30日(水)午前10時～午後5時

岸和田ゆかりの人物「曾我廼家五郎」の掛軸、脚本、番付(プログラム)、書籍、絵葉書等の展示を自泉会館展示室で実施しました。

五郎は、みずから脚本を書き、演出、主演する喜劇団の座頭のスタイルを確立し、日本のチャップリンとも言われるように、「喜劇」というものを日本に確立した人です。生涯に千本を超える脚本を書いたと言われています。(「曾我廼家五郎」については、ふおんて一ぬvol.30の「岸和田ゆかりの人々」をご参照ください。)彼の才能の片鱗が窺える展示会でした。



## 第30回自泉フレッシュコンサート ～緑の風にさそわれて～

平成24年6月16日(土)午後6時30分～

ピアノとヴァイオリンのコンサートを自泉会館ホールで実施し、69人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- レトロな会場で、音の響きもなかなか良かったです。
- 若い希望が感じられ、とても良かったと思います。こういう方を育てていく活動を未永く続けて下さい。

## 会員対象事業

会員の親睦と交流を深めるため、会員を対象としたイベントを実施しました。

姫手まり講習会  
平成24年4月24日(火)



伊藤なほみ氏に講師をお願いし、日本伝統の手まり作りに挑戦しました。



角野常務理事に講師をお願いし、歌唱指導を受けました。

みんなで歌いましょう  
～日本のふるさと編～  
平成24年5月8日(火)

陶芸講習会  
平成24年6月22日(金)

西念副会長に講師をお願いし、お茶碗を作りました。



手作りのお茶碗で、一服を  
平成24年7月4日(水)

前回自分で作ったお茶碗を使って、「時雨草堂」でお茶会をしました。

# 岸和田文化事業協会の事業 Information

## 音楽世界旅 VOL.8 ペルー編

レクチャー・コンサート

### ケーナと風のロマンス アンデスに歌う

世界で活躍するフォルクローレ・グループ「プカソソ」の演奏で、アンデス地方のほぼ中央に位置するペルーからフォルクローレ音楽をお届けします。

日時:平成24年7月28日(土)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:お話:西岡 信雄

演奏:フォルクローレ・グループ「プカソソ」

セルソ・カセレス カルロス・オルテガ

セサル・ラトーレ イタロ・アラゴン

入場料:一般前売2,500円

会員前売2,000円(当日各300円増)

企画:大阪音楽大学音楽博物館

## 第31回自泉フレッシュコンサート ～真夏のさわやかコンサート～

音楽を学び、プロフェッショナルとして  
歩み始めた新人演奏家等によるコンサート。

日時:平成24年8月4日(土)午後6時半開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:岡村 星見(ピアノ、作曲)

上原 健史郎(ホルン)

木村 結(ピアノ)

渡辺 結実(ピアノ)

入場料:一般前売1,200円(当日200増)

会員前売1,000円(当日200増)



## 岸和田市民劇 見上げて町並みラブソング

浪切ホール開館10周年記念事業、岸和田市市制施行90周年記念事業の一環として、岸和田にまつわる演劇を上演します。マドカホール、浪切ホール、自泉会館の三館が協力して、出演者を一般から公募し、半年の歳月をかけてオリジナル作品をつくりました。

出演者等関係者一同の熱意を感じて頂けたらと思います。

日時:平成24年8月19日(日)午後1時半開演

会場:マドカホール(岸和田市立文化会館)

出演者:一般公募

(岸和田市在住・在勤・在学の満16歳以上の男女で、オーディションにより選ばれた方)

入場料:一般前売1,500円(当日500円増)

中学生以下前売1,000円(当日500円増)

主催:岸和田・市民劇実行委員会

共催:岸和田市/岸和田市立浪切ホール指定管理者  
岸和田文化事業協会

## 晴ちゃんのおしゃべりコンサート

バリトン歌手で大阪音楽大学准教授である、晴 雅彦氏によるコンサートです。バラエティ番組にも積極的に出演する、個性的で親しみやすいキャラクターで人気を呼んでいます。

日時:平成24年9月9日(日)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:晴 雅彦

入場料:一般前売2,500円(当日300増)

会員前売2,000円(当日300増)

## 岸和田能 秋の名曲を観る会

### 能 井筒 公演

日時:平成24年10月19日(金)午後7時開演

会場:杉江能楽堂

出演者:大槻 文藏(シテ方観世流能楽師)

ほか能楽協会大阪支部会員

入場料:一般前売3,500円

会員前売3,000円(当日各300円増)

協力:公益社団法人 能楽協会大阪支部

## 第32回自泉フレッシュコンサート ～秋に思いをはせて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして  
歩み始めた新人演奏家等によるコンサート。

日時:平成24年10月21日(日)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:一般前売1,200円(当日200増)

会員前売1,000円(当日200増)

出演者:未定

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで

TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

## 文化情報

### 2012子ども演劇祭inきしわだ

日時:平成24年8月8日(水)～12日(日)

会場:岸和田市立浪切ホール 各会場

入場料:プロ作品 前売1,500円(当日300円増)

アマチュア作品 無料

※詳しくは、チラシまたはホームページをご覧ください。

<http://www.sozosha-net.jp/kishiwada-fes/>



nouvelle  
**Fontaine** vol.36

発行:岸和田文化事業協会

発行日:2012年7月25日

#### ◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索

## 編集後記...

温故知新。世の中、知ってるけど知らない話が結構多い。町角のお地蔵さん、そこにあるのは知ってるけど、何と言うお名前でどんな由緒が知らない。身近な存在を探り、その話題を共有する。そんな文化を「岸和田慢歩」は確かめて歩いている。(藤田)

#### ◆編集委員

和田正則・紙野陽子・小島寿子  
歯黒猛夫・藤田保平・本郷元子